

会議の概要

会議名称	令和5年度 第3回能代市活力ある高齢化推進委員会
開催日時	令和5年10月23日(月) 午後6時30分～
開催場所	能代市役所 会議室9・10
出席委員 (15名)	委員長 小泉亮(地域における保健・医療・福祉関係者) 副委員長 安部美恵子(学識経験者) 委員 渡邊耕佑(介護保険の被保険者) 委員 秋林信郎(介護保険の被保険者) 委員 小林一成(介護保険の被保険者) 委員 芦名早苗(介護保険の被保険者) 委員 原田かほる(介護保険の被保険者) 委員 今村慶一(介護保険の被保険者) 委員 袴田光樹(介護サービス及び介護予防サービスの事業者) リモート出席 委員 松田 進(介護サービス及び介護予防サービスの事業者) 委員 村岡紘和(地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 熊谷真理子(地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 田口和義(地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 土崎博之(地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 土谷幹春(地域における保健・医療・福祉関係者)
事務局	市民福祉部 部長 今野朋実 長寿いきがい課 課長 柳谷 敬 長寿いきがい課 参事 高杉富喜子 長寿いきがい課 課長補佐 石岡 貢 長寿いきがい課 課長補佐 藤田広樹 市民福祉課 係長 市川甲太朗 長寿いきがい課 主査 小山内千栄 長寿いきがい課 主査 安井さおり 長寿いきがい課 主査 佐藤陽子 長寿いきがい課 主査 大久保明子 コンサル 2名
次第	開会 委員長挨拶 案件 (1) 計画の素案(たたき台)について (2) 施設介護サービスの基盤整備について (3) その他 閉会

案件

(1) 計画の素案(たたき台)について

発言者	質疑内容
委員	災害関係について、この夏は猛暑や気候変動であったため、避難所での暑さ対策等の記載があってもよいのではないか。
事務局	避難所では暑さ対策のほか、最近では感染症対策も重要になっている。記載について、防災担当と相談しながら検討したい。
委員	バランスのよい計画になっているが、この事業を重点的に取り組むという考えがあってもよいのでは。
事務局	今回の計画策定にあたって、国からの見直しポイントにもある「地域包括ケアシステム」について重点的に取り組む。なお、能代市が進んでいる点としては、重層的支援体制で、高齢者のみに限らず、障がい者や子育て政策など、広く支援することに取り組んでいる。
委員	他県では福祉を丸ごと抱える取組もあると伺っている。災害についても、想定した高さの防波堤に水位が迫るなど、従来の考えでは対応できない時代に入ってきた。
委員	ホスピス医療について、人生の最期をどういう形で迎えるか、それは自治体が行き届くことになっていないようだが。
事務局	自治体が主となって取り組んではいないが、もし取り組むとすれば、医師会や看護協会、能代山本医療介護福祉連携促進協議会等との会議等で話し合うことになる。
委員	人生会議(ACP)のほか、医師会によるナラティブブックでは、患者や家族、関係機関と連携して患者の最期をどう支えていくかをみんなで考え協力していく体制を作っている。ただ、普及しているとは言い難く、委員からもご意見をいただきながらこれを育てていきたい。
委員	介護従事者が少なくなっている問題がある。先駆的な取組をしている事業者を講師として、新たな雇用のあり方の研修や啓発が必要では。
事務局	「介護従事者の人材確保」の項目で、人材の職場定着やスキルアップを図る事業者を支援するための事業を周知する記載がある。研修会についても検討していく必要がある。
委員	どうしたら離職しないか、職員が魅力を感じる職場とするため、事業者の意識を変化させるような研修が必要である。
委員	「認知症初期集中支援チームによる活動の推進」について、認知症疾患医療センターとの兼ね合いを含め、教えていただきたい。
事務局	認知症初期集中支援チームは、家族の負担軽減につながるよう、認知症の方を早いうちから、医療・介護等のサポートにより半年にわたり支援するもの。半年過ぎても支援することもある。月1回サポート医師を含め会議をしている。認知症疾患医療センターとは、山本郡の自治体とともに情報交換を行うなどにより連携している。
委員	国からの見直しポイントは大項目が記されているが、必要な内容は計画に含まれているか。
事務局	網羅している。
委員	別紙説明資料にある「解説」がわかりやすい。計画本編にも記載してはどうか。
事務局	「解説」を追加するか、文章に溶け込みとするか、検討させていただく。

(2) 施設介護サービスの基盤整備について

廃止が予定されている特養の代替施設の考え方を説明し、委員からの了承を得た。

(3) その他

なし